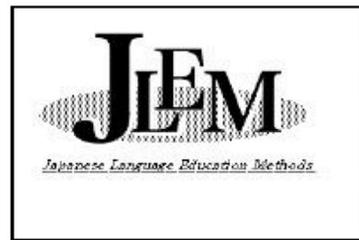


JLEM News Letter Vol.55



第61回日本語教育方法研究会開催

発表 58 件 参加者 254 名

第62回は愛知大学にて

2023年9月9日(土)、第61回日本語教育方法研究会がオンラインで開催されました。また、前日の9月8日(金)には、運営委員会が開かれました。議事については、このレターの記事をご覧ください。

次回の第62回研究会は2024年3月3日(日)に愛知大学(愛知県名古屋市)において対面にて開催します。皆様、奮ってご参加ください。

開催を終えて

内藤 真理子
(事務局)

オンラインでの開催は、今回で6回目となりました。対面で開催していたときは、秋の研究会の発表件数は40件前後だったのですが、オンラインで開催するようになってからは60件前後となっています。参加者数も増え、今回は254名の方に参加していただきました。どうもありがとうございます。

今回の研究会では、オンラインでは初めてのJLEM賞の選考を行い、「ChatGPTによる作文のフィードバックとその活用の試み」(寺嶋さん、他)がJLEM賞を受賞しました。この発表のブレイクアウトルームには1回目だけでなく、2回目、3回目にも多くの方が参加され、合計100名以

上の方が入られたようです。対面でのポスター発表ではこのように多くの方が参加することはできないので、オンラインの良さを改めて感じました。

オンライン開催が始まってから、研究会終了後にアンケートに答えていただいております。今回は148名の方から回答を得ました。アンケートで書いてもらったことを参考に、少しずつ運営を改善しております(例えば、今回は、発表の1回目、2回目、3回目の間に少し時間を取ったり、各発表の終了時にアナウンスを流したりしました)。運営委員は手弁当で参加しているため、ご希望に沿えないことも多々ありますが、できる範囲で、より良い研究会にしていきたいと思っております。研究会に参加された方は、ぜひアンケートにご協力ください。

次回開催にあたって

高村 めぐみ
(愛知大学)

第62回研究会は名古屋市にある愛知大学名古屋キャンパスで開催されます。2017年春の名古屋大学での開催以来、5年ぶりに東海地区で研究会が行われます。名古屋キャンパスは2012年4月に誕生したキャン

パスで、名古屋駅から徒歩約10分のところに立地しており、近隣にはテレビ局、JICA、企業、商業施設が立ち並んでいます。政治・経済・文化・国際交流などさまざまな情報発信力を持つ新しい街に溶け込んだ近未来的なキャンパスで、現在、約200名の正規留学生、協定留学生が日々、日本語や日本文化を学んでおります。

なお、愛知大学は豊橋、車道にもキャンパスがありますので、お間違いのないようお気を付けください。また、大会当日は日曜日のため、1階の出入り口以外は封鎖されています。特に名古屋駅からあおなみ線で「ささしまライブ」駅からいらっしゃる方は、2階の出入り口が使えなくなっておりますのでご注意ください。

2017年名古屋大学には、200名以上の方がご参加くださいました。愛知大学にも多くの方にお越しいただければ幸いです。それでは、みなさまを名古屋でお迎えできることを心より楽しみにしております。

第16回JLEM優秀賞

JLEMの優秀賞・ポスター賞・奨励賞は、オンラインで研究会を開催していたコロナ禍の間、選考を中止してまいりました。

対面開催の前回の研究会で賞の選考を再開しましたが、さらに、今回はオンラインでの開催でしたが、今

後、春は対面、秋はオンラインとなったことから、オンラインの会でも賞の選考を行うこととなりました。

JLEMの「優秀賞」は、①課題の設定やその検証の視点の独自性、②教育実践、研究成果の発展性、③ポスターの作り方（ポスターが見やすいか、内容理解を促進しているか）という3点を基準に審査され、優れた発表を行った会員に授与されるものです。また、優秀賞以外にも顕彰に値する発表があった場合には「奨励賞」が授与されます。さらに、「ポスター賞」はポスターが優れている発表が選ばれます。

会長、事務局、3名の運営委員で構成されるJLEM賞選考委員会で審査を行いました。結果は、以下のようになりました。

「優秀賞」寺嶋弘道（立命館アジア太平洋大学）・稲田栄一（関西学院大学）・板井芳江・隈井正三（立命館アジア太平洋大学）「ChatGPTによる作文のフィードバックとその活用の試み」

「ポスター賞」上原真知子（恵泉女学園大学）・佐藤愛奈（恵泉女学園大学大学院生）・秋元美晴（恵泉女学園大学）「ショート動画作成プロジェクト「教えて！ふむふむ先生」—国際交流課外活動を継続的に行う仕組み—」

優秀賞の寺嶋・稲田・板井・隈井氏の発表は、ChatGPTを作文のフィードバックに用いた実践に関する研究でした。現在、注目されているChatGPTについては、例えば、日本語作文の課題を出したときに、学習者

がChatGPTを用いて、安易に提出してしまい、学習にならないのではないかという恐れを感じる教師も多いと思います。本研究では、学習者が作成した作文について、ChatGPTからのフィードバックをそのまま用いるのではなく、自分で判断して作文を修正していることがわかりました。今後、ChatGPTをはじめ、様々なテクノロジーが開発されると考えられるので、それらをどのように活用するべきかについて大きな示唆が得られたと考えられます。

一方、ポスター賞の上原・佐藤・秋元氏の発表は、ポスターに写真が多く用いられ、非常にわかりやすかったことや、発表形式について、発表者2名で「ふむふむ先生」が再現されていたことが高く評価されました。また、課外国際交流活動における動画作成の実践が成功している要因を明らかにすることで、同じような活動をした方に参考になることも評価されました。

受賞者のポスターは本会のホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

（河野俊之）

都立大学：企画・広報）、鴈野恵さん（筑紫女学園大学：編集）、高村めぐみさん（愛知大学：企画・広報）

③会長（松崎寛・日本大学）、事務局（内藤真理子さん：電気通信大学、畠山理恵さん：文化学園大学）の二期目（2024-2025年度）再任承認

④2022年度の決算および2023年度予算案について会計担当委員より説明が行われ、承認

⑤今後の開催予定：第62回研究会（2024年3月3日）は愛知大学名古屋キャンパス。第63回研究会（2024年9月）は、オンラインを予定（開催校のお引き受け&運営委員へのご参加、お待ちしております）

なお、研究会に先だち9月8日（金）に運営委員会が開かれました（出席21名、委任状提出者8名）。上記報告・審議に加え、今回オンラインでは初となるJLEM賞の選考方法や賞金について審議が行われ、賞金は1件あたり1名分の次年度会費の免除とすることが決まりました。

（松崎寛）

総会・運営委員会報告

研究会当日の9月9日（土）12:50-13:10、2023年度日本語教育方法研究会総会が開催され、全ての議案について承認されました。

- ①会員数：2023年9月7日現在、682名（国内647名、海外35名）
- ②運営委員の交代・就任（2023年4月より）：長谷川守寿さん（東京

事務局よりご連絡

●発表者の会費支払期限

第62回研究会で発表するためには、発表者（複数の場合は全員）は応募時点で2023年度の会費（2023年4月からの新年度分）を支払っていただければなりません。期限は2024年1月10日（水）です。その時点で入金を確認できない方について

ては、発表申し込みを受け付けることはできませんので、早めに入金を済ませてください。昨年度の会費が未納の場合、今年度に会費を支払っても、昨年度分に充てられるため、今年度分は未納のままとなります。発表申し込みを行う前に、必ず発表者全員が各自の会員ページで今年度の会費支払いが済んでいることをご確認ください。

●発表をお断りする場合

本研究会では、以下の場合発表をお断りする場合がありますので、ご承知おきください。

- ①本研究会、または他の学会・研究会で既に発表された内容のもの
- ②研究倫理上問題があると考えられるもの
- ③特定の個人や集団を攻撃する内容のもの
- ④特定の教材、商品、サービス等を宣伝するもの
- ⑤日本語教育との関連が見出せないもの

●住所変更等

JLEMでは、会員管理システムに登録された会員住所に会誌を送付していますが、返送されてくるケースがあります。住所変更等があった場合は、速やかに会員専用サイトにてご自身で会員情報の変更をお願いします。なお、クロネコヤマトのメール便を利用しているため、日本郵便株式会社が行っている転送サービスには対応していません。また、登録の際には、以下の点にご注意ください。

- ・集合住宅にお住まいの場合は建物名まで入力してください。

- ・郵便受けの表札名とご登録の苗字が異なる場合は、住所末尾に「〇〇方」と追記してください。

(内藤真理子)

J-STAGE について

JLEMでは、研究会誌をJ-STAGEで公開していますが、刊行後1年未満の会誌については書誌情報しか見られないように設定にしています。刊行後1年未満の会誌を読みたい場合は、冊子をご覧ください。(※JLEMではJ-STAGEの購読者番号・パスワードの配布はしていません)また、発表に応募される方は、以下の3点についてご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

- ①JLEMでの発表応募は、「J-STAGEでの公開の承認」を前提とすること
- ②編集担当が最終的な受理とした原稿を後で変更できないこと
- ③研究会当日に発表を行わなかったと判断された場合、その原稿をJ-STAGEで公開しないこと

(寺嶋弘道)

会費納入について

会計年度は、4月から3月です。研究会のスムーズな運営のために、6月30日までにお支払いただきますようお願いいたします。

また、各研究会の際に会費納入が終了していない場合は、研究会までに会誌が送付されず、後日送付されることとなります。また、それにより、運営委員の手間が増えることにな

ります。それはともかく、研究会の際、会誌が手元にないと不便だと思しますので、余裕をもってお支払いをお願いいたします。発表申込の締切日を目安とお考えください。

●振り込み先

「郵便局の電信払込」で以下にお振り込みください。

記号：10140

番号：69076511

加入者名：日本語教育方法研究会

振込者名：(登録の会員氏名のみ

:所属先や会員番号から入力すると氏名がカットされることがあるため)。

●ご登録の会員名と異なる名義で振り込む場合(所属先からの振り込みも含む)

必ず振り込みの度に、ホームページの「お問い合わせ」より、その旨ご連絡ください。

●振り込む方の名義が外国語で表記される場合

ご登録の会員名が確認できないことがよくあります。特に、中国の方ではピンインで表記されることが多いため、ご登録の会員名(JLEMのシステムでは漢字とカタカナのみ)を検索して確認するのに時間がかかっています。お手数ですが、振り込んだというご連絡をいただくと助かります。

●振り込みに必要な情報

ゆうちょ銀行の支店名や預金種目が必要な場合、便宜上の店名は、以下のようになっています。

銀行名 ゆうちょ銀行

金融機関コード 9900

店番 018

預金種目 普通

(「普通」「貯蓄」のいずれも可)

店名 〇一八店 (ゼロイチハチ店)

口座番号 6907651

(松崎寛・高橋亜紀子)

ご連絡先を お知らせください

会費をお振り込みいただいた方で、以下の方のお名前が会員名簿で確認できておりません。お心当たりの方は事務局までお知らせください。

2016/09/23 日付け 3000 円振込

「フジタ キョウコ」

2016/09/24 日付け 3000 円

「鈴木 聡子」

2017/06/28 日付け 3000 円振込

「オオタカ ヨウ」

2018/09/03 日付け 3000 円

「浅井 尚子」

2018/09/08 日付け 3000 円振込

「福良 直子」

2019/03/23 日付け 3000 円

「渡邊 美和子」

2019/11/16 日付け 6000 円振込

「カイインバンゴウ 20」

2019/11/20 日付け 3000 円振込

「イトウ エミ」

2020/03/29 日付け 9000 円送金

「カイインバンゴウ 201」

2020/08/17 日付け 6000 円振込

「デンキツウシンダイ ハ」

2020/11/04 日付け 3000 円送金

「ショウワジヨシダイガ」

2021/01/21 日付け 3000 円送金

「X I A Y I H U」

2022/01/28 日付け 3000 円振込

「ガク」キョウリンガクエ」

2022/07/11 日付け 3000 円送金

「SONG Y I H」

2022/07/23 日付け 6000 円振込

「ヨシウチ エミ」

2022/07/28 日付け 3000 円振込

「ガツコウハウジン キョ」

2023/01/25 日付け 3000 円送金

「SUN FANG」

2023/01/31 日付け 3000 円振込

「ヒロシマコウギョウダイ」

2023/04/07 日付け 3000 円送金

「トウホクダイガク ユウ」

2023/05/25 日付け 3000 円振込

「コクサイブ`ト`ウタ`イカ」

2023/05/25 日付け 3000 円振込

「カントウカ`クインタ`イカ」

2023/06/29 日付け 3000 円送金

「CHEN ZHE」

(敬称略, 11月16日現在)

(高橋亜紀子)

※今後、ニュースレターへの情報掲載は過去2年分とし、連絡先の方からない方については、情報をメールでお伝えすることとします。

運営委員会メンバー

会長：松崎寛 (日本大学)

事務局：内藤真理子 (電気通信大学), 畠山理恵 (文化学園大学)

会計：伊藤夏実 (東京農工大学), 島崎薫 (東北大学), 高橋亜紀子 (宮城教育大学), 平田秀 (武蔵野大学)

編集 (ニュースレター担当)：世良時子 (上智大学)

編集 (会誌担当)：内山喜代成 (桜美林大学), 榎原実香 (東京工業大学), 大津友美 (東京外国語大学), 尾沼玄也 (拓殖大学), 香月裕介 (神戸学院大学), 鷹野恵 (筑紫女学園大学), 工藤嘉名子 (東京外国語大学), 栗原通世 (国士舘大学), 小森万里 (大阪大学), 佐々木良造 (静岡大学), 鈴木綾乃 (横浜市立大学), 生天目知美 (東京海洋大学), 村上智子 (山梨学院大学)

編集 (J-STAGE 担当)：寺嶋弘道 (立命館アジア太平洋大学)

情報管理：佐藤礼子 (東京工業大学), 篠崎大司 (別府大学/株式会社篠研), 橋本直幸 (福岡女子大学)

企画・広報：河野俊之 (横浜国立大学), 高村めぐみ (愛知大学), 俵山雄司 (名古屋大学), 中川健司 (横浜国立大学), 根津誠 (国際交流基金), 長谷川守寿 (東京都立大学), 平山允子 (日本学生支援機構)

企画・広報：河野俊之 (横浜国立大学), 高村めぐみ (愛知大学), 俵山雄司 (名古屋大学), 中川健司 (横浜国立大学), 根津誠 (国際交流基金), 長谷川守寿 (東京都立大学), 平山允子 (日本学生支援機構)

企画・広報：河野俊之 (横浜国立大学), 高村めぐみ (愛知大学), 俵山雄司 (名古屋大学), 中川健司 (横浜国立大学), 根津誠 (国際交流基金), 長谷川守寿 (東京都立大学), 平山允子 (日本学生支援機構)

日本語教育方法研究会

問い合わせ先：[jlem-m1@jlem-](mailto:jlem-m1@jlem-sg.org)

sg.org

(レター編集：世良時子)